

2024年6月5日

第1回 岩手大学次世代アグリ研究セミナーのご案内

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。さて、下記のとおり、第1回 岩手大学次世代アグリ研究セミナーを開催いたします。今回は、国立歴史民俗博物館の佐野雅規氏をお招きし、「樹木年輪の酸素同位体比による気候復元と年代測定—歴史学・考古学との協同による環境史研究—」と題してご講演いただきます。ぜひご参加ください。

記

1 日時

2024年6月26日(水) 15:00~16:30

2 場所

岩手大学農学部南講義棟 1階 4番講義室

3 内容

【講演】「樹木年輪の酸素同位体比による気候復元と年代測定—歴史学・考古学との協同による環境史研究—」

国立歴史民俗博物館 特任准教授 佐野 雅規 氏



近年、過去の気候変動を精密に復元する古気候学の急速な進展により、歴史の画期となる時代に大きな気候変動があったことが世界各地で報告されています。樹木は、年輪を形成するという性質に加え、陸域の広範囲に森林が成立しているため、過去数千年間の気候変動を1年単位の解像度で復元するための材料として頻繁に使われてきました。しかし、日本を含む温暖・湿潤なアジアモンスーン地域では、水や光をめぐる隣接木との生態学的な競争が樹木の肥大成長を左右するので、年輪幅から気候変動の情報を抽出することが容易ではありません。そうしたなか、2000年代に入ってから分析技術の向上に後押しされ、樹木年輪セルローズに含まれる酸素同位体比の大量測定が可能になったことで、年輪幅では不適であった温暖・湿潤地域の気候復元(相対湿度、降水量、乾湿、雲量など)がアジア各地で多数報告されるようになってきました。本発表では、日本を含むアジアを対象とし、樹木年輪を利用して過去の気候変動の実態を明らかにする取り組みを紹介するとともに、歴史学や考古学の知見と対比させることで、気候変動に対する当時の社会の応答について話します。また、日本においては、過去5000年間にわたる酸素同位体比の標準年輪曲線が構築されているので、それをを用いた考古材の年代決定の事例についても紹介します。

【発表者の略歴】愛媛大学大学院連合農学研究科修了・博士(農学)、Indian Institute of Science・研究員、日本学術振興会特別研究員、総合地球環境学研究所・上級研究員、早稲田大学人間科学学術院・講師、名古屋大学大学院環境学研究科・特任准教授などを経て、現在、国立歴史民俗博物館・特任准教授、

<https://researchmap.jp/fokienia>, <https://www.researchgate.net/profile/Masaki-Sano>

4 参加申込

6月24日(月)まで、下記フォームにてお申込みください。

参加申込フォーム

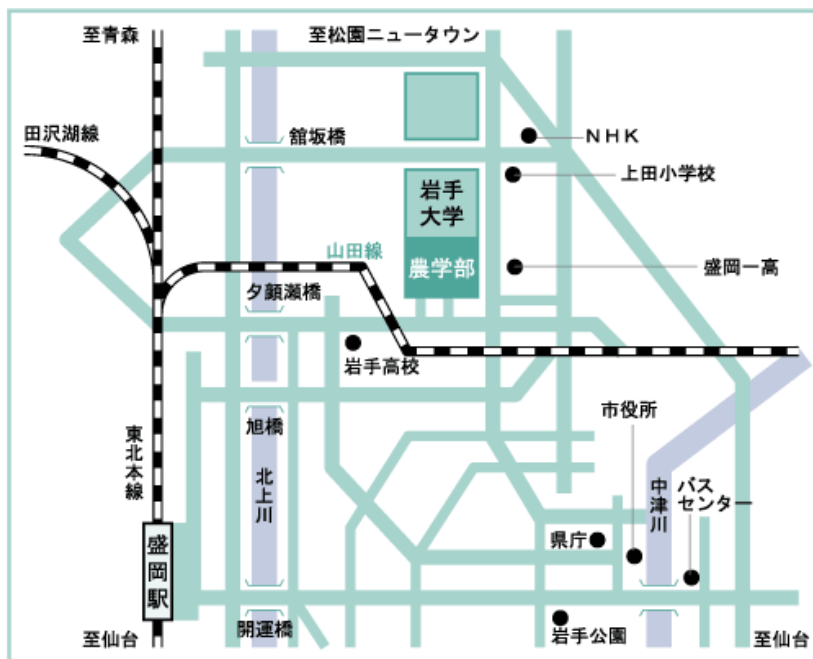
<https://forms.gle/yWi1RaqeMTyPCxoE6>



●会場案内図 岩手大学農学部 盛岡市上田3丁目18-8

<盛岡駅から岩手大学までの路線バス>

11番乗り場より(所用時間約10分)松園バスターミナル行 または 桜台団地行乗車
岩手大学前下車 片道210円



【情報交換会】セミナー終了後、情報交換会を盛岡駅付近のお店の予定。ぜひ多くの方々のご参加いただき、異分野融合の新しい研究などの議論できればと願っております(参加費4000円くらい)。

[お問い合わせ先]

岩手大学次世代アグリノベーション研究センター

Email: aic@iwate-u.ac.jp